

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JCHO中京病院 立体駐車場	階数	地上4F
建設地	名古屋市南区三条一丁目301外11筆、港区木場町1-2外1筆	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、工業地域、防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2021年10月7日
敷地面積	35,676 m ²	作成者	
建築面積	2,540 m ²	確認日	2022年10月7日
延床面積	9,752 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE 0.7 ★★☆☆☆☆

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>元々、多大な設備を用いる建物ではなく常時人がいないため省エネルギー、CO₂排出には有利な建物であり、そこから更に緑化や再生材料などを使用する環境に良い建物を目指す。</p> <p>自然と共生した魅力ある駐車場、安心安全で利用しやすい駐車場、周囲と調和した親しみやすい外観、周辺住宅環境へ配慮した駐車場を目指す。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>開放性を確保した自走式自動車庫の為、評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>設備が少ない為、設備更新期間が長く、鉄骨躯体のみで構成されているために耐用年数の高い建物である</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>緑地帯(芝)を設けることで周囲と調和した親しみやすい外観、周辺住宅環境へ配慮をする</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>自走式駐車場であるため、特に多大なエネルギーを消費しない。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>コンクリート骨材や砕石に再生骨材を使用している</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>近隣への配慮として車両のライト及び外灯が直積的に当たらないようライトグレア防止対策を行います。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

JCHO中京病院 立体駐車場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	3.0	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.06	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.9



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。